

# Market Review

## 「骨・関節」市場をターゲットに動き出したコラーゲン エビデンスが揃うコラーゲン・トリペプチド

### 質の時代に突入するコラーゲン

コラーゲンは、美肌成分の定番として市場に定着しています。1970年代より化粧品への保湿剤として利用されてきましたが、90年代中頃より飲料やサプリメントなどの機能性食品への配合が拡大。美容やアンチエイジングに対する関心の高まりを受け、一般消費者への認知が広がりました。

しかし、2001年に日本初の狂牛病が発生したことにより、ウシ由来のコラーゲンの流通が制限されました。これを契機に、消費者の食品や化粧品などの成分に対する目が厳しくなり、コラーゲンの質や機能性への関心が高まりました。この消費者心理をいち早く捉えた素材メーカー、製品メーカーは、より高品質、高機能、安全なコラーゲンを求めて原材料の切り替えを進め、現在では、ブタや魚由来のコラーゲンが主流となっています。

こうした背景を追い風に、コラーゲン・トリペプチドの需要は拡大しています。狂牛病問題で、ブタや魚由来のコラーゲン・トリペプチドのイメージが相対的に向上。さらに、2000年から2004年にかけて、ゼラチンを中心にコラーゲン・トリペプチドの美容効果を裏付ける研究成果が相次いで発表され、機能性で従来

のコラーゲンとの差別化が図られました。

その結果、サプリメントや化粧品などへの採用が拡大、吸収性の高いコラーゲンとして支持を集めています。

### 「骨・関節」領域でも注目を集める

このように“質が問われる時代”に突入したコラーゲン。今後も、美容分野の中心成分として市場の拡大が期待されています。一方、新市場として注目を集めているのが、「骨・関節」を中心とした領域です。

高齢化社会の到来、ダイエットによる骨密度の低下など、骨・関節の健康維持に対する消費者のニーズは高まっています。例えば、ヒザ関節のクッションとなっている軟骨のすり減りや筋力の低下などによりヒザに痛みが生じる変形性膝関節症の患者数は、計2400万人とも推計されています。

カルシウムを筆頭に、グルコサミンやコンドロイチン硫酸などが骨・関節にいい成分として先行していますが、既に一部の製品ではコラーゲンが採用されています。中でも、コラーゲン・トリペプチドは、スポーツ選手の骨折や変形性膝関節症の症状改善といった優れた効果を実証しており、骨・関節領域での注目が高まっています。

### アンチエイジング市場での成長に期待

コラーゲン・トリペプチドの市場拡大が、特に期待されているのがアンチエイジング分野です。肌や骨・関節の老化防止、若返りは、アンチエイジングにおける中心ニーズであり、その両方に効果があることが、コラーゲン・トリペプチドが注目されている大きな理由です。

日経ヘルス編集部では、以前からコラーゲンの美肌効果に注目、2006年3月号ではコラーゲン・トリペプチドの特集も組んでいます。ここでは、実際に読者モニターに対してコラーゲン・トリペプチドを試用してもらい、効果を検証しています。被験者全員の肌弾力が向上するなど、極めて優れた効果を発揮しました。また、「例年冬に痛むヒザの関節が、コラーゲン・トリペプチドの摂取で全くなくなった」（40代男性）という声もあり、肌と骨をダブルでアンチエイジングする成分として注目しています。記事に対する読者の反応も高く、アンチエイジング市場での成長が大きく期待される健康素材といえるでしょう。

## コラーゲンの過去・現在・未来

1970年代

### コラーゲン登場

・化粧品への配合  
(保湿剤)

コラーゲンを  
ぬる

1990年代中頃

### コラーゲン認知拡大

・食料、サプリメント、  
食品への配合拡大

コラーゲンを  
飲む・食べる

2000年～

・消費者の健康意識の高まり  
・サプリメントブーム

現在

### コラーゲンが 質で選ばれる時代に

・原料の切り替え  
・相次ぐ研究成果

安心かつ科学的エビデンスに裏付けられたコラーゲンが消費者の支持を拡大

アンチエイジング市場

美肌市場  
肌

健康市場  
骨・関節など

機能性を高めたコラーゲンが、美肌成分としてだけでなく、骨や関節にも“届いて効く成分”として市場を拡大。消費者のアンチエイジングニーズに応える成分として注目が高まる。